

伊勢市教育研究所

<http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

E-mail:kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

平成26年9月3日発行

伊勢市教育研究所

伊勢市小俣町元町540番地

# たより



乳幼児教育専門講座【浜松学院大学短期大学部 准教授 志村浩二先生】

## 乳幼児の育つ道筋 ～発達段階とは？～

6月28日(土)に、幼稚園・保育所(園)の先生方を対象に、乳幼児の育ちについて学ぶ機会を設けました。講師は、浜松学院大学短期大学部の准教授をされている志村浩二先生です。志村先生はとても気さくな先生で、事例を挙げたり、実演を交えたりしながら、わかりやすく、楽しくお話してくださいました。

これからの乳幼児教育に携わる人たちは、子どもだけでなく、保護者支援、地域の支援まで求められてくるので、大変な時代になってきます。ただ現代社会は、子どもを育てる親にとっても大変な時代であるということも確かです。そこで、覚えておいてほしいのは、人間の子育てと動物の子育ては違うということです。

例(ハブ対マングース)



対



人間と同じ哺乳類のマングースは、猛毒を持つハブと、命がけで戦いますが、この戦い方(ハブに勝つ戦い方)は、親に教えてもらったものではなく、本能として持っているものです。人間以外の動物は、生きていくための本能が生まれつき備わっているのです。しかし、人間にはこのような力が備わっていないため、人間の赤ちゃんは、ケアとコミュニケーションによって育てられます。



**「子育ての上手下手」という言葉を聞くことがありますが、人間の子育てはもともと偉大なことです。子育てをしているというだけで、立派なことです。子育て真っ最中の人はそれだけで、偉大な作業をしているのです。保護者の相談を受けるときは、まずは子育てをしていることをねぎらいましょう。**

このあと、乳幼児の発達段階を追って、その特徴や対応を丁寧に話していただきました。

## 中 1 ギャップを解消するための小小連携事業 五十鈴中学校区（進修小、修道小、四郷小）

7月16日(水)、鈴鹿教育大学前学長で理学博士の佐治晴夫先生を進修小学校にお迎えし、素敵な講演を聞かせていただきました。

これは「不登校対策ハーモニーハート総合推進事業」の一環で、同じ中学校に進学する子どもたちが小学校のときから、よりよい関係をつくっていくための小小連携の取組です。

五十鈴中学校区の6年生は、進修小学校の体育館に集まって交流し、一緒に佐治先生の講演を聞かせていただきました。

**私たちの命は星のかけらでできている。**

**星は光りながら炭素(炭)を作っているが、その星が死んで、かけらが地球に落ちてきた。地球の生物(人間)はそのかけら、すなわち炭素でできている。だから、君たちは星の王子様、王女様ということだよ。**

という話や、天の川の音、実際の衛星

から見た地球の姿等の迫力ある映像に、子どもも大人も引き込まれてしまいました。



音は気持ちを表します。言葉が分からなくても、音で気持ちを表せます。見えないものを想像するのが人間の特徴。見えないものでも、そこにあるということ意識すること、見えないものを見ようとするのが大切です。それは、昼間の星を見ることと同じなのです。

### 心に残る佐治先生の言葉

「一番自分を知らないのは自分だよ。」

「自分が自分でいられるのは、周りがあるからだよ。」